



図3 中間育成場の水温

Ⅲ 人工種苗の放流と追跡

1 放流海域周辺の環境

放流海域は、沖縄島北部西岸に位置し、本部半島と屋我地島に囲まれた通称「羽地内海」と古宇利島と屋我地島の東に広がる通称「羽地外海」からなる。羽地内海は運天港からの水路部を除いては、水深が10m以浅である。羽地外海は屋我地島の東側に10m以浅の浅海が広がる。さらにその東に水深20mほどの南北に延びる深みを隔てて沖側に干瀬があり、複雑な海底地形を呈している(図1)。ここは沖縄県下でも浅海が特に発達した海域である。

当真(1980)は、生物環境の違いから羽地内海を遮蔽型、羽地外海の西部分を準開放型の海域としている。また羽地内海の屋我地島寄りにはアマモ場が、また外海の古宇利島と屋我地島寄りにはアマモ場とガラモ場が帯状に広く分布している(当真, 1980)ので、このあたりは幼稚魚の成育場になっていることが予想される。漁業者の話では、フエキダイ類などの幼魚が多いという。また羽地内海はハマフエキ当才魚の冬季の成育場であると考えられている(海老沢・山本, 1983)。